



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.2 |

課題作文「飢餓問題に私たちは何ができるか」のまとめ

1 主体的に学ぶ習慣を身につけよう

社会科(公民)の授業では、明快な回答が見つからない課題を中心に学んでいます。ですから、教えられたことをそのまま暗記するのではなく、自分が納得いくまで調べて、自分なりの回答を発見して欲しいと思います。

そして、社会問題の解決方法を考えるときには、①信頼できる資料で事実を調べて、②何が問題なのかを明確にします。③そのうえで、どうすればみんなが納得できる解決方法になるのかを自分で主体的に考える習慣を身につける必要があります。

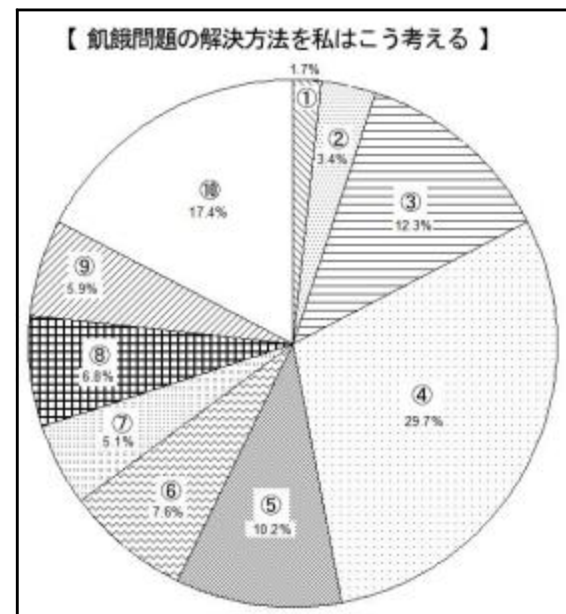
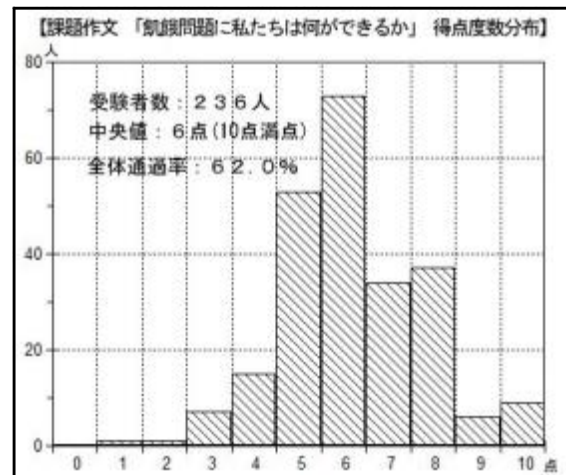
さて、社会問題は様々な立場の利害が対立して起きています。その対立を「みんなが納得」して解決する方法の考え方として「効率と公正」を1学期の終盤に学びました。今回の課題は、この「効率と公正」を使って考えると深い内容の作文になりました。

君たちが作文に問題点として取り上げた事象と解決方法は、右のグラフと一覧表のように分されました。個性が表れたんですね。

作文の説得力の違いは、事実に基づいて、筋道の通った説明をしているか、どうかで出ます。そのため、根拠にするデータの質と豊かさが得点の差になって現れました。また、

問題点を具体的に説明できる人ほど、解決策を具体的に構想できていました。

この「なんでやねん」で紹介する代表作文から、学習の仕方を学んでください。



解決方法	人数
①食料消費の無駄をなくしながら、支援方法まで考える	4
②先進国と発展途上国の公平性を実現するべきだ	8
③日本の食料廃棄を見直すと同時に肉食を抑制するべきだ	29
④日常生活を見直し食品ロスを防ぐべきだ	70
⑤制度的に食料消費の無駄をなくすべきだ	24
⑥日本や先進国の肉食を抑制するべきだ	18
⑦日本の食料輸入を制限するべきだ	12
⑧発展途上国に農業技術などを伝える	16
⑨ユニセフなどに募金する	14
⑩その他	41
合計	236

2 作文の課題と重要論点

今回の作文課題は、4人の中学生の話し合いに、自分が参加していたら、自分はどのような意見を発表するかという舞台設定でした。他の人の意見にも耳を傾けながらも、主体的に自分なりの回答を探さなければなりません。

今回の重要論点は、①今の世界には8億人を超える人が飢えている事実があることと先進国の豊かな食料事情は関係ないのか、②飢えている人たちをどうすれば救えるのか、の課題です。

「飢餓をなくそう」は、国際連合が2030年までに実現すると定めている「持続可能な開発目標」の1つです。これを君たちが自分の課題として捉えているのかを尋ねた試験問題です。

問題文にヒントを多く入れました。ヒントをきっかけに自分で調べて欲しかったからです。だから、わざと具体的な数値などを入れませんでした。授業で使用した「**なんでやねん**」にも多くの情報がありました。「高得点」のためには、データ(事実)を自分で調べ直す必要があるのです。

なお、この問題文には「畏」を仕掛けています(イケズですね)。次郎君の

「石油を使って燃やしている」というセリフです。日本で石油を利用してゴミを焼却している問題は、地球温暖化や資源の枯渇の問題と直接的に関係します。しかし、飢餓問題(要因は複雑)の解消方法を考えるときには、少し離れた論点でした。地球温暖化の進行を仮に止めることができてでも飢餓問題は解消しないからです。

全体を貫く重要な視点は「効率と公正」の考え方です。「資源の無駄を省きつつ、公平な社会を築く」という「効率と公正」の考え方をあてはめて、飢餓問題を考えることが大切でした。「避難所の弁当」と同じ構造の社会問題だと気づきましたか。

▽ 次の4人の会話文は中学生のものです。4人が話していることについて、あなたはどのような意見を持ちますか。4人の会話をよく読んだうえで、あなたが考えることを作文しなさい。(主体的に学ぶ態度)

太郎君：地球上では、今、約8億人の人々が飢えているみたい。飢えが原因で1日に死ぬ人が1日に4万人ほどいる。そのうち7割が子どもたちなんだ。腹ぺこってつらいよ。毎日だよ。

はな子さん：それなのに、日本では毎日のように、まだ食べることのできる食べ物が捨てられているって聞いたよ。

次郎君：そうだね。日本全国で多くの食料を捨ててるようだ。それも石油を使って燃やしているんだ。

はな子さん：それから、こんなことも勉強したよ。先進国では穀物よりも肉食中心の食生活になっていて、多くの家畜を飼育している。その家畜の飼料(エサのこと)に大量の穀物を与えているって。

たけ子さん：何か変よね。先進国で大量に飼育されている、ブタや牛が穀物を食べて太っていて、発展途上国では多くの人たちが飢えているなんて。私は、先進国が肉食をやめれば、発展途上国にも穀物が行き渡ると思うわ。

次郎君：そうかなあ〜、肉を食べないと動物性タンパク質が取れない。丈夫な体を作ったり、健康な体を維持するのに肉食は必要だよ。僕は肉を食べたいと思う。どう考えたら良いんだろう。

はな子さん：私たちが健康なのは肉食ができてからだよ。迷うけど、私たちの生活が優先だから仕方ないのかなあ〜。

たけ子さん：でも、飢えている子どもたちのことを考えると不公平だわ。私たちは毎日のように肉を食べているけど、食べ物が全然ない所に生まれた子どもたちは、肉どころか穀物も食べることができていないのよ。

太郎君：僕たちにも責任があるような気がする。どうしたら、地球上で飢えている人たちを減らすことができるんだろう。

たけ子さん：そうよね。飢えている多くの人たちのために、どうしたら食べ物を少しでも増やすことができるのかなあ〜。日本の国全体でできることや、私たち一人ひとりにできることって何があるんだろう。

3 採点基準

- ◎ 各論点について、事実に基づき、重要用語を正しい意味で使用し、筋道を立てて文章を書いていること。
- ◎ 各論点についての評価点は、()に示す評価点を上限とする。
- ◎ 加点法で行うが、作文全体で論理的に成り立たない文章は、後の文章を0点とする。

① 問題点を指摘していること(4点)

㊦世界では8億人以上の人々が飢えているにもかかわらず、食料自給率の低い日本が大量に食材を捨てている(資源の無駄)。 ㊦穀物は一人で年180kgあれば健康に暮らせる。世界の年間穀物生産量は24億トンあり、穀物は一人あたりにすると328kgも生産されている。それなのに飢えている人々がいる。 ㊦世界では毎日4万人以上が飢えて死んでいるが、その70%は子どもたちである。 ㊦先進国は肉食のために、肉1kgと穀物1kgは同じカロリーなのに、牛肉1kg作るのに穀物7kg、豚肉1kg作るのに穀物4kg、鶏肉1kg作るのに穀物2kgを使っている。 ㊦食料を捨てると食品価格が上がるなど。

② 対立している意見を説明していること(2点)

㊦国の機関は、自国の国民の健康を守る必要・責任がある。 ㊦健康な体を維持するためには、動物タンパク質を取る必要があるから、肉食は仕方がない。
㊦飼料用穀物と人間用の穀物を同じように計算するべきではない。など。

③ 公平性や公正の視点から検討していること(2点)

㊦飢えている子どもたちに罪も責任もない。貧しい国に生まれただけで飢えて苦しまなければならない。 ㊦先進国の肉食化が進んだことで、発展途上国の穀物輸入が困難になっている。 ㊦戦後、日本が飢えていたときにユニセフに助けられた。など。

④ 日本や私たちにできる取り組みについてふれていること(2点)

㊦余るほどの食材を買わない。 ㊦食料自給率を高める。 ㊦地産地消を進める。
㊦肉食の仕方を改善する(牛肉→鶏肉)。 ㊦その他、食料資源を無駄にしない取り組みや、食料の公平な分配方法などについて具体的に検討しているなど。

4 友達の作品から学ぼう

次に、8点以上の一部の「答案」(30人分)を紹介します。主張(結論)は似ていても、主張に至る根拠として取り上げている事実は様々です。自分の作文との違いなどを確認しながら、読んでください。きっと、新しい学びがあるはずです。

なお、ここで紹介する作文は、世界の飢餓問題を克服するために「どのような解決方法を提案するか」を「主な指標」にして分類しています。

どの作文も複数の解決方法を示していますので、その作文で強く印象に残る点に注目して分類しました。この区分が正確なものでないことをあらかじめお断りしておきます。

「原文」のまま紹介していますので、文中の誤字・脱字は修正していません。注意して読んでください。「答案」の下(※寸評:)は、私(倉橋)のコメントです。

(1) 食料消費の無駄をなくしながら、支援方法まで考える作文

A組M.Y. 私はまず世界に飢えている人たちがいると知り「世界全体は食糧不足なのか」と考えた。しかし、そうではなかった。世界には全人口が安定した食事ができる量の食糧があるのにも関わらず、アフリカなどでは飢えに苦しんでいる人々がいる。その原因は日本を含む先進国の食生活だと思う。毎日食べ残しをして、大量の食糧を平気で捨てる。日本で捨てられる食糧を集めたら飢えに苦しむ人々を救える程にもなる。なので私たち1人1人に出来ることとしては食べ残しをしない。必要以上に買わない、募金活動に参加する、世界の飢えている子どもたちの状況を知るなどがあるだろう。しかし、私が1番大切だと思うのは「学び」である。日本がここまで豊かになったのも学べる環境があり、生きるための知識を手に入れたからだだろう。例えば、目の前に飢えている子どもが3人いるとする。1人は食糧を与え、もう1人には農業の方法を教え、もう1人には何もしない。この子どもたちの中で長生きできるのは誰だろうか。間違いなく農業の方法を教えた子どもだろう。つまり、日本が出来ることの中で、飢えている人々が自立できるように支援することが大切である。食糧を輸出し、飢えを少しでも減らすことも出来るが、それは一時的なしのぎに過ぎない。この世界で生きていくためには「学び」が必要なのだ。毎日あたり前のように学校に行き学んでいる私たちは自分たちが置かれている環境に感謝し、世界の飢えについてもっと真剣に考えなければならない。そうすれば、地球上で飢えている8億人の命を救えるのではないだろうか。

(※寸評:この作文は、とても奥深い内容をもっています。特に、飢えている地域に食糧を輸出しても「一時的なしのぎに過ぎない」「飢えている人々が自立できるように支援することが大切」だと指摘している点が光ります。ただ、どのような内容を自分たちが「学び」、どのように活かしていくのか、自分がしなければならないことについて、もう少し具体的に書くことができるともっと良い作文になりました。残念です。)

D組M.M. 私たち先進国では毎日十分な食事を摂ることができています。しかし、発展途上国では日々飢えて苦しんでいる人が多くいます。つまり先進国と発展途上国の食事の摂取量には大きな格差ができてしまっているということです。私たちの身近なお店などでは毎日店頭に様々な種類の数多くの食品が並んでいます。毎日、十分にあるため私たちはありがたみを忘れてしまいます。まずは食べ物を捨てないようにすることが大切です。バイキング料理などでも自分が食べれる量だけにします。また、賞費期限がせまっている商品でもできるだけ買うことで店側も商品を捨てずにすみます。また店側もタイムサービスなどで消費期限がせまっている商品を売るということは大切だと思います。また、

天候などに左右されにくい栽培方法などを飢えている国々の人々に教えることはとてもいいと思います。日本が持っている技術・知識で人々を救うことができます。このように私たち(消費者)と店(販売者)などが積極的に食品を無駄にしないということを心がけて研究者・農家の人々は技術を伝えて食料を育てやすくすることによって食材が少しでも飢えている人々の所へ運ばれていく一歩ではないかと思います。

(※寸評:この作文は、先進国と発展途上国の格差を指摘していますが、その格差を公平の観点から評価していません。しかしながら、自分たちのできることを具体的に示すだけでなく、日本のできることとして「研究者や農家の人々は技術を伝える」ことによって発展途上国を支援することを訴えています。なお、消費期限を「賞費期限」としている所があるので、気を付けたいですね。)

(2) 先進国と発展途上国の公平性を実現すべきだと主張する作文

B組Y.K. 飢えている多くの人たちのために私達ができることは、効率や公正の考え方を持つということだ。具体的な例を3つ挙げよう。1つ目は、食料のはい棄量を減らすことだ。現在日本では、1日に1000万人分もの食料が捨てられている。この数字は、1日に飢えが原因で死ぬ人の数をはるかに上回っている。また、それらの捨てられる食料の大半は海外からの輸入品を材料に作られたものであり、店での売れ残った商品など、まだ食べれる物である。もし、この捨てられる、余分な食料を日本が輸入しなければ、発展途上国にこれらを輸入する機会が与えられるだろう。2つ目は、肉の摂取量を少し減らすことだ。肉の生産には、植物よりも多くの資源が使われている。例えば、私たちは牛肉1kgを得るのに牛のエサとして穀物を7kg使っている。また穀物7kgは、7人分の1日のエネルギーを供給できるが、牛肉1kgは1人分の1日のエネルギーしか供給できない。つまり、私たちが牛肉1人分の消費を控えたら、7人分もの穀物の資源が残るということである。そして、これらもまた、発展途上国に与えられる穀物の輸入の機会を増やすことになるだろう。3つ目は、日本が技術支援するということだ。発展途上国では、人口が爆発的に増加しているのに対し、耕地面積は横ばいしたままだ。そこで、日本が効率の良い穀物の育て方を教えることで、少しは食料が増えるだろう。これら以外にも、飢餓を救うための方法はたくさんあるが、全てにおいて一番重要なことは”持続可能な社会”を目標にし、それを実現できるよう1人1人が努力することだ。そのためにも、私たちは効率や公正の考え方を持ちながら積極的に社会参画をしていかなければならない。

(※寸評:この作文は、日本の食料廃棄量の多さに注目して、日本の食料輸入量についての見直しをせまっていますが、具体的な対策にふれることはできていません。また、日本の肉の摂取量を少し減らすことを訴えています。肉の摂取量を減らすことでおきる健康面への影響についての検討がありません。しかしながら、発展途上国への技術的な支援の必要性を主張する点で光ります。)

C組Y.M. 地球上では、今、約8億人の人々が飢えている。飢えが原因で亡くなる人は1日4万人もいてそのうち7割が子どもたちである。また、日本では毎日のようにまだ食べられることができるものが捨てられている。さらに、先進国で大量に飼育されているブタや牛が穀物を食べて太っているということが起こっている。同じ人間なのに、格差があるのはおかしい。なぜなら不公平だからだ。だから、この食料問題を解決するためには、まず、必要な物、量だけを買うということを心がければよいと思う。そうすれば、日本の輸入量が減り、その分を飢えている人に渡すことができる。次にできることは、肉や魚を控えめにすることだ。そうすることで、えさとして与える穀物が少なくなり、その分を飢えている人たちに食べてもらえる。しかし、肉や魚を控えていたら自分たちが満足できないし、栄養が取れないと思う人がいるかもしれない。でも、本当に飢えている

人を助けたいなら「満足できない」ということは関係ないはずだ。たとえば肉などを別の食材に置き換えればよい。ハンバーグを豆腐で作れば、同じくらいの満足感を得られる。「栄養が取れない」ということに関しては、全く食べないわけではないのでそのようなことにはあまりならないと思う。最後に、食べ残しをしないこと、食事が与えられたことに感謝すること、食事が与えられているのは決して当たり前ではないことを忘れてはいけない。今、先進国こそが飢えている人たちを助けるべきではないか。

(※寸評:この作文は、先進国と発展途上国の格差を明確に「不公平」だと指摘しています。その不公平さをなくするための具体的な方法を、作者は日常生活でできることを通して検討しています。本気度が伝わります。提案している方法も実践可能なものです。ただ、栄養面での検討は、もう少し科学的にせまりたかったですね。たとえば、家庭科の教科書にもタンパク質を含む食品の必要量などが紹介されていますよ。)

E組A.I. 世界では十分な量の食料が生産されているのに、9人に1人が飢えている。飢餓は、農業の生産性が低い、雇用される賃金が安いという課題と、穀物や果物の価格が輸送によって高とうし、貧しい家庭層の人が手に取れない、不公平な貿易の仕組みが引き起こしている問題である。途上国への食料支援も大切だが、国は世界中に正しく食料が行きわたる仕組み作りが必要だ。世界では3分の1の生産される食べ物が食べられることなく捨てられている。食料の多くを輸入している日本は、1年間で消費される8400万tのうち、1700万tが捨てられている。その中で食べられるものは500～800万t。これは消費大国アメリカを上回り、途上国の人の5000万人分の食料にあたる。日本では少しでも色や形が悪い肉や野菜は業者や生産者が捨ててしまう。このシステムをどう最小限化するかが求められる。私たちが飢餓をなくすためにできることは、ささやかでも募金に参加したり、何よりもまず現状を知ること、そしてそれをツイッターやブログ等を用いて伝え、サポーターを増やすことなどがある。また、生活を見直し、食べ残しをしない、余った食材は工夫して使い切る、腐らないように考えて買うこともできる。酪農を守る観点から、穀物を大量消費する家畜を消費しないのではなく、私たちが生活を見直して食料廃棄を減らすと、無駄な消費が減り、輸入も減る。世界に足りないのは食料ではなく、1人1人の行動とも言える。

(※寸評:この作文は、飢餓問題の原因をしっかりと調べて書くことができています。特に、最後の「世界に足りないのは食料ではなく、1人1人の行動」だと結んでいる文言は、とても強く印象的です。日本の食料廃棄量の多さがアメリカよりも多いことを指摘している点は鋭さを感じさせます。また、自分たちのできそうなことを具体的に提案しています。日常生活の上での工夫だけでなく、酪農家の保護まで視野に入れている広角的な思考が光る作文です。)

F組I.K. 飢えている人がいる中で、食べられる物が捨てられているという問題は、突きつめれば先進国と発展途上国との間にある不公平さだと思います。先進国の多くは資本主義です。私はこの資本主義というシステムに問題があると思います。資本主義は利益を出すことを最優先とし、捨てられるということが分かっているでもそれを上回る利益が出れば良しとされ、資源の無だ使いまで考慮されていません。また、国民が便利さ、快適さを求め過ぎ、それに企業が応えようとし、過剰なサービスや品物を届けているので資源の無だ使いが増えていくんだと思います。飢えている人に食べ物を残すには、1つは政府が、企業が資源の無だ使いをしていないか鑑視の目を強め、企業も利益優先の考え方を改めることだと思います。もう1つは、国民が不便やがまんを受け入れていくことだと思います。

(※寸評:この作文は、飢えている人がいるのに食べ物を捨てる国があることは、先進国と発展途上国との間の不平等だと明確に言って問題点を指摘しています。さらに、まだ学習していない「資本主義」の弊害も鋭く指摘しています。資本主義は多くの利益を生み出してきましたが、その一方で「利益を出すことを最優

先」するために、弱者が受ける不利益に対して配慮が欠けることが起こりやすい欠陥も持っています。それは国民の間でも、国家間でも同じことが起きてしまうのです。とても高いレベルの作文です。)

(3) 日本の食料^{はいき}廃棄を見直すと同時に肉食^{よくせい}を抑制するべきだと主張する作文

A組S.U. 私は、最後の「日本の国全体でできることや、私たち一人ひとりにできること」は何かを考えました。まず、日本の国全体でできることは、輸入の量を減らし、賞味期限が近い・切れている物を安く売ることです。日本は、賞味期限が遠い物を買ひ、賞味期限が近い物が売れ残り、捨てられるという連さになっていると思います。なので、衛生面を考えつつ、賞味期限が近い・切れている物を安く売れば、皆は安い物を買ひ、まだ食べられる物を捨てることは少なくなると思います。実際に、デンマークで賞味期限が近い・切れている物ばかりを安く売っている店ができたことにより、生ゴミはいき量が約25%減少したそうです。このように、賞味期限が近い物を安く売れば、はいき量が少なくなり、輸入の量も減らせると思います。次に私たち一人ひとりにできることは、肉や魚を今よりひかえめに食べ、自分が食べられる量を考えて食べ物を買うということです。牛やブタが穀物を大量に消費しているので、この会話にもあるように、肉を食べたいという気持ちを少しおさえたら良いと思います。また、生ゴミは家庭内でも発生しているので、家庭内では発生させないように自分が食べたい量だけ買えば良いです。また私は、きふやば金も必要だと思います。1人1人のば金で、ワクチンを接しゅでできるからです。

私は、一人ひとりや国全体・世界の人びとが少しでも生ゴミを減らすためにはどうしたら良いかを考え、自分の食生活を見直すことが出来たら飢えに苦しんでいる人達が少なくなると思います。私は飢えている人がいない社会になればいいと思います。

(※寸評:この作文は、かなり多角的な視点で検討しながら、慎重に自分の意見を主張している力作です。特に、デンマークでの取り組みを紹介しながら、食料廃棄量を減少させる対策を提案しているのは説得力があります。さらに、日常生活の問題点もふまえながら論じているので、実践できる対策を考えていることがよく伝わってきます。)

C組A.S. 8億人の飢えて苦しんでいる人たちに私たちができることは、まず食べれる分の食糧だけを手に入れるということだ。日本では毎日のようにまだ食べることでできる物が捨てられている。その食料を8億人の人々に少しでもわけられたら、飢えに苦しむ人は少しでも減るのではないだろうか。次に、自給自足だ。私たちの食事は、ほとんどがスーパーなどで購入した食べ物だ。スーパーで買った物だけを使うのではなく、少しでも自給自足をして買う量を減らしたらどうだろうか。その減らした分は1人1人では少ないだろう。でも先進国の人々が全員で行えば8億もの人は救われるのではないか。また、私たちは肉をよく食べる。たしかにタンパク質は体を作るために大切だ。しかし、一日に摂取しなければならぬ量よりもはるかに多く食べていないだろうか。一日に摂る最低限の量にしたり、他のものでタンパク質をおぎなったりして、食用のブタや牛を減らせるのではないだろうか。その分の穀物があればきっと飢えて苦しむ人は減るだろう。少しの努力を少しずつしていくことで飢えが原因で死ぬ人が減ったらいいと思う。

(※寸評:この作文も、日常の食生活で見られる行動をていねいに検討して、食料問題に対する解決策を考えようとしています。食料の大量廃棄を減らすために、食料の節約と、自給自足をすべきだとする主張は気持ち分かりますが、自給自足の点はやや弱いように思います。農地を持たない人には無理があるからです。けれども、肉を食べているから摂取量をおさえるべきだとしている内容は、とても説得力がありますし、誰にも実行可能な提案になっています。)

E組S.N. 地球上では、今、約8億人の人々が飢えています。飢えが原因で死ぬ人が1日に4万人ほどいて、そのうち7割が子供です。僕たちが当たり前のように食べられているのに不公平だと思います。よく、世界で生産されている生産されている穀物26億トン÷76億人＝340kg/人(標準量180kg)で穀物は十分足りると言われています。しかし、これは加工でんぷんや資料に穀物を使わなかった場合です。私たちは肉を食べなければ健康を維持することはできません。実際、食用の穀物は43%なので、26億トン×0.4÷76億人＝147kgとなり、足りません。肉を食べつつ、食用の穀物を増やし、世界中の人々が180kg食べるには、食用の穀物を9%増やし、飼料の割合を9%増やす必要があると思います。飼料の割合を減らしても今までの3/4の肉を食べることができます。((飼料の割合36%－9%)/(飼料の割合36%)＝3/4)それよりも、世界中の人々が穀物を食べれるようにすることが急務だと思います。しかし、たとえ食用の穀物を増やしても先進国が生産された穀物を穀物がない地域に無駄なく分配しなければなりません。まずは、僕たち1人1人が、食品ロスを減らし、飢えている人々がいることを知り、積極的に飢えを無くす事業に参加することが大切だと考えます。

(※寸評:この作文は、とても鋭い視点から書かれている力作です。この作文の作者の指摘する通り、実際には、食用穀物と飼料用穀物の2種類の穀物が栽培されています。しかし、土地や水資源などの穀物を栽培する条件は同じなのです。先進国は食用穀物を栽培できるのに、飼料用作物の栽培に資源を活用しているのです。肉食を拡大するためです。その点を、この作文は鋭く指摘しています。みごとです。ただ、現在の肉食の傾向は、必要量以上の肉を消費・供給していて、先進国では肥満や成人病などの健康問題を生み出していることにも視野を広げて欲しかったですね。)

F組K.M. 地球上で起きている飢えによって死んでいくという出事をどのようにして改善していけばいいのだろうか。国連が発表したナマケモノでもできるガイドブックによれば肉や魚の食事を減らした方が良くある。理由は肉を食べるのにたくさんの穀物が使われているということだ。それもそのはず、牛肉を1kg食べるのに消費されている穀物は7kg程といわれ、これは牛だけでなく、豚、にわとり、羊などでも挙げられる。人々が大好きな肉の食事を減らせというものわかる気がする。次に食べ残しの問題だ。先進国で最も自給率の低い日本だが、それにも関わらず、年間に出される生ゴミの量もトップだ。自分たちでできることはないのだろうか。ひとつとしては食事で食べ残しそうになれば捨てるのではなく冷凍し、次の食事で食べる。デリバリーでもそのようにすれば、捨てることなく食べ切ることができる。地球にある問題は「飢え」だけではないが人間に最も身近である行為、「食事」からも改善しようではないか。

(※寸評:この作文は、日本で生ゴミが多く出されていることと、食料の大量廃棄が行われていることを直接的に結びつけて食料の節約を訴えています。少し論理的には無理があります。生ゴミが食べることのできるものとは言いきれないからです。また、牛肉と豚、ニワトリを飼育するのに必要な飼料は量的に異なります。もう少し、ていねいに説明をすることができると、とても説得力が出るだけに残念です。)

(4) 日常生活を見直し食品ロスを防ぐべきだと主張する作文

A組S.I. 私は、日本が輸入している食料の量を減らすべきだと思う。理由は、食品ロスを少しでも減らせると思うからである。日本は食料自給率が低いため、食料をたくさん輸入している。でも、それらは、食べきれず捨てられることが多い。食品ロスだ。日本が、食品ロスを減らしたら、発展途上国の人々に食べ物が行き渡るかもしれない。そこで、私たちができることを考えてみた。まず、消費期限の近い食品を選ぶこと。今夜食べるのに、1週間先の期限のものを買う必要はない。

次は、訳あり品を買うということ。形や見た目が悪いだけで、捨てられそうな食べ物

はたくさんある。だから、訳あり品を買って訳あり品を減らしていく。訳あり品だと安く、買う人にとってのメリットもあると思う。さらに、国産のものをなるべく買うということ。国産を買うことで、自給率が少し上がるかもしれない。しかも、輸入品の売り上げが伸びなくなったらスーパーも、買わなくなると思う。最後は、すばやく、冷蔵・冷凍すること。あまり、食べないでくと、忘れていううちにくさってしまうかもしれない。冷凍しておいたら、カビも生えずに、長い間保存できる。このように、私たちができることはたくさんある。直接は、関わらないかもしれないが、必ず結果は変わると思う。だから、ロスを減らして世界中がおなかいっぱいになってほしい。

(※寸評:日本で捨てられている食材の多さに注目して、食料廃棄量をおさえようとする趣旨は分かります。確かに、輸入量を減らせれば必然的に消費量は減るでしょう。けれども、輸入量の減少が廃棄量の減少につながるとは限りません。作者が、ていねいに日常生活の様子を分析してから、解決策を検討していることには説得力があるだけに、前段の文章の説明不足が残念です。)

B組A.K. 現在、全世界で穀物生産がされています。しかし、それを日本のような工業先進国が約40%を消費しているのです。日本は食料自給率が低く、しかもその穀物の半分以上を家畜のエサにしています。そのため、輸入に頼っているのが現状です。その日本が輸入した食料の1/3(年間2000万t)を捨ててしまっています。

これは他人事ではありません。世界に飢餓で苦しんでいる人がいるその原因は私達の日々の生活にあるからです。

私自身が反省しなければならないことがあります。日本の捨てている食料の半分以上は家庭ゴミなのです。そして、「古くて食べられないから」「カビが生えてきたから」「少し余ったから」など気を付けられる理由ばかりです。

一方、私の家は生活協同組合に入っています。国産の質の良い食物、日本の食料自給率を上げることを目指している生産者と消費者との関係作りなど同じ考えを持つ消費者が集まる組合です。安い商品を買うなどの自分中心の考えをしないように消費者の意識改革も必要だと思います。

また、スーパーマーケットの売れ残った企業ゴミやコンビニの売れ残り弁当は90%が再利用されずに焼却や埋め立て処分されていますが、それらを家畜のエサとして利用する取り組みも良いことだと思います。

(※寸評:この作文は、日本の食料廃棄量のうちにしめる家庭ゴミの多さに注目しています。それに、日本の食料自給率の低さが、発展途上国の食料不足を生み出している要因だとして、食料廃棄を減らそうと主張しています。自分たちの日常生活を見直すことで、飢餓問題を少しでも解消できるとする点は評価できると思います。しかし、企業ゴミやコンビニの売れ残り商品を家畜の飼料にすることで問題を解消できるかどうかは疑問の残る点でしょう。発展途上国に食料が配分されないことには変わりがないからです。)

B組N.T. 現在世界では世界中の人がじゅうぶんに食べられる量の食べ物が作られています。ですが、今世界には8億2000万人の飢えた人々がいます。また、その7割が子供だと言われています。その理由には、教育が普及していないため、収入がないことや、食べ物を運ぶ交通が整っていないこと、国際価格が手につかないことがあります。一番大きな理由と考えられるのは発展途上国のほとんどの人々が仕事としている農業が不作になってしまうこと、そして私達の資源や食べ物の捨てる量が多いせいでもあります。私や私たちにできることを考えてみました。農家が不作になってしまう理由は異常気象のせいだと言われています。なので私達の電気の無だ使い、シャワーや水の無だ使い、これからの季節ならクーラーのがまんをして、3Rなどを積極的に行うことが少しずつ行われている

けば解決につながると思います。また、今先進国では穀物をブタにあげたり、バイオの燃料として使っています。私達が少しでもブタの肉を食べる量を減らせば、その少しでもたくさんの人々が救われると思います。バイオの燃料として使われているのは、まったく使わないということはできませんが、少しエコや節電を気かければ飢えている人々を飢えから救い、地球温暖化や大気汚染にも効果があると思います。私も、まだボランティアなどはできませんが、小さな意識から少しずつ始めていきたいなと思います。

(※寸評:この作文は、発展途上国の食料危機が、教育が進んでいないこと、低所得や交通手段の未整備のために起きていることを鋭く指摘しています。ところが、説明の途中で、「異常気象」に原因を求め始めたところから、趣旨が一貫しなくなっています。前段で指摘した、社会的な資本の弱さと、地球温暖化を防ぐ取り組みとは直接的に結びつかなくなるからです。この作文の展開では、発展途上国の社会資本の弱さを支えるための直接的な対策を考える方が、説得力が出たと思います。あと少しです。残念。)

C組M.S. 発展途上国で飢えている人々がいるという問題を解決するために まず そんな人々がいるのかについて調べてみた。すると4人の会話で出てきた理由も含め、大きく3つに分けられることが分かった。まず、1つめは家畜を飼育するためのエサに大量の穀物が使われている。ということだ。世界中で作られている穀物の40%がエサとして使われている。2つめは、日本が世界から沢山の食べ物を輸入している。ということだ。これは日本人である私たちの食生活が変わってきていることに理由がある。60年前に比べると、今の私たちは13.5倍も肉を食べるようになっている。3つめは、2つめで書いた輸入してきた食糧の3分の1を日本が捨てているということだ。日本人は1人あたり平均で毎日1コ分のおにぎりを捨てているそうだ。私は4人の会話や この3つの理由を知って、1人1人にできることがあると思った。特に理由の3つめの食糧をたくさん捨てている ということに関してだ。これは1人1人が意識すれば少なくなると考えた。例えば、ご飯の材料などを買うとき、「これは本当にいるのかな? と考えて買ったり」「量が多くて…」「苦手だから」というようなことを理由にして食べ残しをしているのをやめたり、少しの工夫で変わっていくことだと思った。

(※寸評:この作文で、引用されている「日本人は1人あたり平均で毎日1コ分のおにぎりを捨てている」は説得力があります。また、世界中で作られている穀物の40%が飼料用作物だというしきも正確です。ただ、発展途上国の飢餓問題を解決する方法についての説明が弱いのが残念です。)

D組A.K. 私は、必要な物だけを手に入れるのが大切だと思う。日本では、毎日、大量の食材や食品が捨てられている。その中には、まだ食べられる(賞味期限がちかくなっただけの)ものや、旬やシーズンが過ぎて売れなくなったものもあるのだ。またその中に、たくさん肉が入っている。

私は、テレビで恵方巻が捨てられているのを見たことがある。恵方巻は、数日間置いていても、味はあまり変わらず、おいしくいただけるが、2月4日になれば、すぐに捨てていた。テレビでも「こちらの商品は海鮮巻き、」や「こちらは、〇〇産の黒毛和牛を巻いたもの、」などと言っていた。私は、なんて馬鹿なんだろうと思った。お店の側は、”品切れてはこまるから、少し余分に入荷したそうだが、”少し余分”が本当に余分になれば、ただの無駄なのだ。この無駄をはじめから無くしていれば、化石燃料の消費がおさえられ、牛やブタも余計に殺されない。そしてなにより飢えている8億人のうち1人でも死にかけの状態から救えたかもしれない。捨てられる食品をそのまま発展途上国にもっていくことはできなくても、加工される前の穀物を飢えている人の元へ届けられるかもしれない。

私は世界中の飢えをなくすには、1人ひとりが必要なものを必要なだけ使ったり、つくったりするべきだと思う。大量の食材を捨てる前に、必要な分を考え、捨てる食材を0にしたなら、世界の飢えはなくなって、飢え以上に環境問題の解決へもつながる。地球規模で、みんなが幸せになれるだろう。

(※寸評:この作文が取り上げている恵方巻きの大量廃棄は、今年の節分の日の話題でしたね。ニュースを思い出して、日常に行われている消費活動の中から問題点を分析し、対策を考えたことは評価できると思います。ただ、私たちが食材を節約すると、発展途上国に食材が届く可能性が広がる点についての説明をすることができると、もっと説得力が増しました。残念です。)

D組M.H. 私たちの生きる日本で年間に捨てられる食物を集めると、それはもしかすると発展途上国に生きる人々が年間で食べる食物の量と同じくらい、もしくはそれ以上になるかも知れない。私たち日本人など先進国の人は食べもしない食物を買い、賞味期限を切れし、それをごみ箱に捨てているのだ。だからまず私は食べ物を増やすためにやるべきことの中で1番簡単であろう、「食べ残しをしない」「必要な分だけ買う」を実せんしたい。これは私たち一人ひとりにできることだ。それにこの2つのやるべきことは国全体でもできる。例えば、コンビニなどで廃き処分されている食物を例に上げてみる。これも家で捨てている食物と同じく、期限切れから起こる問題だ。せっかく仕入れた食物もこれでは無駄になってしまう。ならば、スーパーで時々見かける訳あり品のように、期限が近い商品の値段設定を低くしたり、それができなくても、ポイントをつけたりという工夫をしたらいいんじゃないだろうか。別に買ってすぐに食べるなら期限間近でも良いじゃないか。これは町や、国全体でできることだ。だが、この国だけできても、他国ができていなければあまり意味はない。だから、今飢えている人が多くいることを世界中で共有し、資源の無駄づかいをやめるといふ動きを作ることが大切だ。これができれば、もしかすると、化石燃料の使い方についての考え方も変わるかも知れない。そして、こういう大きな活動をしていくにはやはり、私たち1人ひとりが積極的に社会参画することが1番重要なのではないだろうか。

(※寸評:この作文は、「日本で年間に捨てられる食物を集めると、それはもしかすると発展途上国に生きる人々が年間で食べる食物の量と同じくらい」と鋭く指摘しています。これで、日本の食料廃棄量を減らすべきだという根拠が明確になっています。その後で、この作文の作者は、日常生活で食物の節約方法を具体的に検討して、提案していますので、とても説得力があります。)

D組H.W. 今、約8億人の人々が飢えている。そんな中、日本では毎日1000万人分の食材が捨てられているようだ。なぜ、日本では多くの食材のごみが出ているのだろう。私はニュースで恵方巻が大量に捨てられているのを見たことがある。恵方巻以外にもクリスマスケーキや販売されているお弁当、生鮮食料品なども多く捨てられている。これらは店が商品が品切れすることを恐れ、大量に商品を作っていることから起こる。用意した商品全てを客が買うとは限らない。また、客も、賞味期限の長い商品をとっている。それが続くと、賞味期限の近い商品が売れ残り、食料廃棄につながる。では、どうしたら食料廃棄を減らせるのだろうか。まず、客は賞味期限の近い賞品や、国連のガイドにあるように野菜・果物などでいびつな形をしているなどの「訳あり品」を買うということが必要だ。また、ビュッフェなどでは初めから多く取りすぎず、料理が無くなっても文句を言わないことも大切だ。一方、店は品切れを恐れず、多くの商品を作りすぎず、客に「訳あり品」や賞味期限が近いものなどを安くして買ってもらえるように工夫することが大事だと思う。こうした行いを続けていけば、ブタや牛なども多く育てすぎる必要が

減っていき、家畜のエサにあてていた穀物の量もおさえられる。また、生ゴミを堆肥化すると、ゴミを燃やす際の石油が減らされ、食材から作られた肥料で新たな食材を育ていける。このような取り組みを1人1人が意識し、日本全体にこの取り組みが広がっていけば、日本が輸入していた無駄な食材の分を発展途上国に届けられるのではないかと思う。だから、私は日常生活から、食料廃棄を減らす行いにつとめていくことが大事だと思う。

(※寸評:この作文は、消費者だけでなく、食品を販売する側の動きも視野に入れて、食料の大量廃棄の原因を分析しています。また、対策も、販売方法や消費者目線に立って考えています。提案している内容は、日常生活で実践できそうな具体的ものばかりです。とてもよく考え抜いたことが分かります。)

E組A.S. 私は家畜が太って発展途上国の人々が死んでしまうのは不公平だと思う。肉を食べなければ、丈夫な体を作ったり、健康な体を維持するのは難しいかもしれないけど、今ほど毎日肉を食べなくても十分生きれると思うからです。それに日本は漁業も盛んだし、食べ物はたくさんあるのにわざわざ肉ばかりを食べる必要はないと思うからです。日本は食べ物が毎日捨てられて、それを石油で燃やしている。食べ物も無駄だし、資源も無駄である。私たち一人ひとりにできることは、自分が食べる最低限の量しか、食べ物を買わないということです。あと、食事は残さない、ということや、その日の夜に調理する、などの場合は、スーパーの見切り品などを買う、ということです。このようにすれば、食物を買う量も減るし、見切り品などは普通の商品よりも安いからお金も低価格で済ますことができる。私たちにはこれくらいしかできないが、一人ひとりの協力が日本を変えて、世界を変えていくんだと思う。国は輸入する食べ物の量を減らすことが必要だと思う。私達の食物は十分に足りているのに、お金があるからといって発展途上国までもの食べ物をうばってしまっているからだ。日本も含め先進国は発展途上国のことも思いやって、しっかりとこの食糧問題に向き合っていかなければならない。

(※寸評:この作文は、先進国の家畜が太って発展途上国の人々が飢え死ぬのは「不公平」と、食料分配の先進国と発展途上国の公平性についています。そして、肉食に頼ろうする傾向を批判して、自分たちの日常の消費生活を見直すべきだとしている点に鋭さがあります。その結果、食料節約の提案に説得力が増しています。国全体のすべきことを最後に書いているあたりにも、その気配りが表れています。)

E組M.M. 私は、このまま飢える人が減らないということは、日本のような先進国の人々が食べられるようなものを捨てたり、食べられるものを他のことで使い続けているということになるから問題だと思います。日本だけでも何千万にも救えるようなゴミを出しています。そもそも世界で生産されている穀物の量で世界の人々が食べていけるだけの量があります。しかし、私たちのような日本や先進国の人々が家畜の飼料に大量の穀物を与えたり、とうもろこしをバイオエタノールにしたりしています。ただ、一番の大きな原因は食べられるものを捨てていることだと思います。特に日本ではたくさんの物を輸入しているにもかかわらずたくさんものを捨てるということをしています。足りていないのに捨てるというのはむじゅんしているように思います。なのでまずはいろんな物を捨てない、新しいものをすぐには買わないということを個人、個人からはじめればいいと思います。捨てないの中には訳あり商品を買うということも含まれると思います。訳あり商品はただちょっと傷があるというだけで捨てられてしまいます。そんな商品を買うことも、捨てないにつながります。また日本産の物を買うということもいいと思います。自給率も上がるし、みんなが国産の物を買うことで輸入する量が少しでも減れば少しでも飢えている人のところへ行くとと思うからです。こんな日頃のちょっとしたところを変えてい

くことで少しでも良い方向に変わるのではないかと思います。

(※寸評:この作文は、日本のような先進国の食料の大量廃棄やバイオエタノールの生産が、飢餓問題の原因だと鋭く指摘しています。世界の穀物生産量は全人口を養うだけの量があることを根拠に、消費者一人ひとりの行動が飢餓問題を解消する方法だと主張しています。自分たちのできる解消方法も具体的に提案できています。論理的に一貫した説得力のある作文です。)

F組I.I. ぼくは日本の食料の大量はいきが問題だと思う。まず、身近な自分の生活でできることを考えてみた。まず1つ目に必要以上の物を買わない。2つ目に賞味期限が近いものから順に食べ物を食べる。3つ目に賞味期限が近い食べ物を冷凍保存する。4つ目に賞味期限と賞費期限の違いを分かっておく。賞味期限は多少期限が過ぎても食べられるが、その期限までに食べるとおいしく食べられるという期限のこと。賞費期限はその期限までに食べないと、もうその期限を過ぎたら食べられなくなるという期限のこと。また、海外でもこの食料の大量はいきが問題になっている。その対さくとして、アメリカでは「ドギーバッグ」というバッグに外食で食べ残してしまったものをもちかえるという活動をしている。またデンマークでは、賞味期限切れの賞品だけを置いている店がある。また、日本でも対さくをしている物がある。それは食べられないことはないが、どうしても捨ててしまうというようなお店の商品をアプリを通してお客さんに報告。すると、お客さんがその商品をかいたいという、お店に報告が行き、その商品を取り置きしてもらえ。そしてそれをお客さんが取りに行くというアプリだ。日本ではこのアプリはあまりしんとうされていない。だからまずは、ふだんから自分でできることをして、少しでもみんなにうえている子供たちのことや、その対さくをしているアプリなどを教えてあげたいと思った。

(※寸評:この作文は、海外の取り組みを引用して、食料の大量廃棄を防ぐ取り組みを提案しています。賞味期限切れの食材の有効活用について、若者に浸透しているSNSを使うというアイデアは斬新ですが、支持されていない理由をもう少し掘り下げると、より説得力のある作文になりました。ただ、「消費期限」を「賞費期限」と書いてしまっているので、作文を書いた後でいねいに見直すと良いでしょう。)

F組S.N. 地球上には、飢えている人が約8億人もいる。その人たちは、明日食べるものがあるかどうかともわからない。それに対し、先進国の私たちは毎日食べるものがありあまるほどある。そして、それらを簡単にすてる。このようなことはあってもいいことなのだろうか。そのすててしまった食べ物があつたら、少しでも飢えている人の命はつなげたかもしれない。そして、私が最もおどろいたのは、この問題文にも書かれているように「ブタや牛が穀物を食べて太っていて、発展途上国では多くの人たちが飢えている。」というこだ。私は、このような先進国の考えがあまりにも自分勝手だということが世界の飢え人口の増加の大きな要因だと思う。そのことを、人のことだと思わず、身近に考えるべきだ。私たちの意識を少しずつ変えていったりすることで対策にはなる。たとえば、私の家族がしていることは、わけありのリングを買うこと。マイバッグ(エコバッグ)を持ち歩くこと。食材を活かし、残さず食べてむだをださないようにすること。消費期限がきれていても五覚にたよること。など、少し考えただけで沢山思いつきます。このような身近なことでも1人から2人、2人から4人へと世界に広げていくことで飢え人口を増やさないことにもなるし、「持続可能な社会」にもつながっていく。そして、私たちのそういった行動をもとに、政府が発展途上国に対する開発援助、国際援助や国際協を積極的に取り組むことが必要だ。私自身も、普段している行動1つ1つを改めて考え直し、まわりの人と考えを共有し合っていきたい。

(※寸評:この作文は、自分たちの勝手な行動が飢餓問題を引き起こしていると指摘して、自分たちの責任を考えようとしている点で評価できます。しかし、マイバッグを持ち歩くことで、先進国の肉食の拡大を防げとは思えません。地球環境問題と飢餓問題を混同すると効果的な対策を考えることが困難になります。そのために、対策が少し抽象的になっています。もう少し、ていねいに考えるべきでした。)

(5) 制度的に食料消費の無駄をなくすべきだと主張する作文

A組S.Y. まず、日本の国全体でできることは食べ残しを減らすこと。今、日本では1日におよそ1000万人分、1年間ではおよそ36億5000万人分の食料を日本だけで捨ててしまっています。日本は食料自給率が先進国の中で最も低いものにも関わらず、たくさんの食料をゴミとして捨ててしまっています。しかし、逆にいえば日本人々が食べ残しを減らすことによって世界中の飢えて苦しんでいる人々に1日で数百万人、1年間では数億人の人々に食料があたえられます。そのことを考えて国全体で食べ残しを減らしていかなければなりません。

私たち一人ひとりにできることは、食べ残しそうなものは最初から買わないようにすることだと思います。どうしても家に多く食料があると食べ残し食べないということもあります。そのことを考えて、買い物をする時などに、食べきれぬぐらいの食料を買って食べ残しを少なくすることが必要だと思います。

(※寸評:この作文は、日本で廃棄されている食物を数値計算して、食料廃棄量の客観的に示すことで、食料廃棄の深刻さに説得力をもたせています。その後で、日常生活で食料廃棄を防ぐための取り組みを提案して、論理的な一貫性を維持しています。ただ、取り組みの具体例の説明がやや弱いのが残念です。)

E組Y.F. 私は、「食料問題」に着目して考えました。食料のごみの量を減らすことが地球上で飢えている人々を救う第一歩につながると思います。今の日本は、食料自給率がとても低いものにも関わらず、1日におよそ1,000万人分もの食料が捨てられています。これは大変深刻な問題です。世界的に人口が増加しているということはその分、必要な食べ物の量も増えていきます。しかし、それに反して、世界では異常気象が多くなった影響で年々、穀物生産量が減少し続けています。人口は増えているのに食料は減っているということは、これが続いていくと間違いなく世界中が食料不足におちいってしまいます。そのような状況に置かれているのに、食料を無駄にするなどあってはいけません。私たち一人一人ができることは、自分が食べきれぬ量をしっかりと理解して食べ残しをしない、ということです。小さいことですが、広がっていけば大きな力になります。あとは、異常気象の原因の1つである温暖化の進行をおさえるためにも節電などができると思います。日本の国全体としては、食料自給率を上げることができればなと思いました。他国を救うならば、自分の国の食料くらい自分たちで作るべきです。これらの取り組みで食料の無駄をなくし、今まで捨てられていた分を飢えに苦しむ人々に回せたらなと考えました。

(※寸評:この作文は、食料廃棄量の深刻さが最初に強調されています。それを受けて、食料を無駄に消費しないことの大切さを主張しています。また、日本の食料自給率をあげる必要があるとする提案も論理的には一貫します。しかし、食料生産の状況について説明するところで、「穀物生産量が減少しています」と説明していますが、これは誤りです。たしかに、干ばつなどの異常気象のために穀物生産が一時的に不作になることがあります。また、地球温暖化を学んだ授業で、小麦が地球温暖化の影響を受けて減産になる可能性が高まると学習しました。現在の世界の耕地面積は横ばいですが、けれども、栽培方法の改良や灌漑施設の普及などにより、全体的に見ると穀物生産量は増えています。しかも、先進国では穀物は余っています。ただし、今後、地球温暖化が進み平均気温が4℃上昇すると、小麦などは28%以上の減産になると考えられています。

一方で、急激な人口増加をおこしているアジアやアフリカなどでは、食料不足は深刻さを増しています。また、この作文では、自分たちの取り組みの説明が少し弱いことが気になります。)

(6) 日本や先進国の肉食を抑制するべきだと主張する作文

C組M.I. 地球上では、約8億人が飢えている。飢えによって苦しみ、死んでしまう人がたくさんいる。これは、大きな問題である。この問題が起きているのは、この地球上の食糧を生産する力が少ないから、ではなく、先進国が食糧を独占した挙句、無駄にしているからである。私は、特に「私達の食べる肉」に着目して考えた。はな子さんの言うように、今、牛などの家畜は本来人の食糧となりうる穀物を食べて成長しているという事例が多発している。でも、昔家畜というのは人間が食べられないもの、つまり草などを食べることで成長し、私達の食糧になるように成長してくれていたのだ。だから、家畜には草など人間がそのまま食べられないものを飼料として与えるのが良いと思う。最近では草を食べて育つ牛の肉が「グラスフェッドビーフ」と呼ばれ健康志向の人々に人気がある。草を食べて育つ牛の肉の方が穀物を食べ育つ牛の肉よりよけいな脂がないそうだ。つまり、「先進国の人々も、肉を食べても病気になりにくくなり、発展途上国の人々の飢えもなくなる」、このことが「グラスフェッドビーフ」によって実現するのである。そのような農業の改革に加え、日頃私達の行う買い物を見直し、食糧を買いすぎないようにしたり、余った食材をフードバンクに寄付したりして、私達も日常生活から様々なことを見直さねばならない。

(※評言:この作文は、「地球上の食糧を生産する力が少ないから、ではなく、先進国が食糧を独占していた挙句、無駄にしている」と先進国の行動を厳しく批判しています。そこで、食糧廃棄の問題ではなく、肉食拡大による飼料用穀物の使用問題を克服するための提案をすることで、論理を一貫性させています。肉食を継続し拡大するためには、より多くの穀物を家畜に食べさせる必要があるからです。この作文の作者は、肉食自体を否定するのではなく、グラスフェッドビーフによる飢餓問題の克服との両立を図ろうとする提案をしています。食生活を少し見直すという提案は、作者の思慮深さを感じさせます。)

D組A.N. 結論からいうと結果の公正が大切である。まず私達日本人の課題として挙げられるのは、3つある。1つは、肉食用の生物に大量の穀物をあげているのに、世界では穀物を食べることも出来ない人が大勢いること。2つ目は私達が動物の肉を食べすぎていること。3つ目は毎日毎日大量の食べ残しが出ていることである。この3つは絶対に改善しなければならない。1つ目と2つ目の改善策としては私達が動物の肉をあまり食べないようにすれば良い。だが、私達が生きていく上で動物性タンパク質は必要である。そこで1食分で必要な動物性タンパク質は体重1kgにつき0.3g。よって体重50kgの人は $50 \times 0.3 = 15$ により、15gしかいらないうことである。でも今の日本はハンバーグも100g以上しか売っていなかったりと明らかに食べすぎている。もし、みんなが、15gまでに抑えたら、今、動物にあげている穀物も少しは飢えに苦しんでいる人の役に立つはずだ。3つ目に関しては、まず、バイキングなどを廃止するべきだ。そして私達も買いすぎたり、料理を作りすぎた時は、冷凍などをして捨てる量を減らす取り組みが必要である。でもやっぱり、少しくらいは捨てられる食物があるだろうから、それを家畜などにあげたら良いのではないだろうかと思う。それに、肉をたくさん食べなくても大豆などで動物性タンパク質は補える。そして、穀物も動物にあげる分を飢えが多い地域に寄贈したりしたら、必ず飢えは減る。そうすることで結果の公正へとつながっていく。私は皆が同じだけの量を食べる公正な世界にしくはないと思う。そのためにも、まずは食生活から変えていくべきだ。

(※寸評:この作文は、結果の公正を判断基準にして、穀物の食べることができない人々が大勢いること、過ぎた肉食、食料の大量廃棄を改善するべきだとしています。そのうえで、人が健康的な暮らしに必要な動物性タンパク質の摂取量を数値的に求めて、科学的な根拠をもとに肉食を制限し、家畜に与えている穀物の消費量を制限しようとしています。とても論理的に考え抜いた作文です。しかし、厳密に言うと、データの読み方に少し誤りがあります。日本人の食事摂取基準によると、一般の人が必要とするたんぱく質の量は体重1kgあたり0.8gです。体重が50キロの人であれば1日当たり40gが目安となります。しかし、動物性タンパク質と植物性タンパク質を半分ずつくらい摂取する方が健康的だと言われています。そうすると、1日当たりの動物性タンパク質は20gが適量だとなります。そこで、動物性タンパク質20gを摂取しようすると、100gの牛肉・豚肉・鶏肉・魚などを食べることで満たされます。これは1日の必要量なので、レストランのステーキを見ると200g位が一般的ですから、私たちは牛肉などの肉を食べ過ぎているということになります。とてもよい作文ですが、残念ながら、気持ちが少し前のめりになっています。)

F組H.F. 私は、穀物の生産を増やしたり、食料の値段を下げたりするべきだと思う。なぜなら、飢えている人の多くは貧しい家庭層で、食料の価格が高いため食料が買えないからだ。食料が足りていないから価格が高いのかというところ少し違うと思う。なぜなら、世界の穀物の生産量は約24億トンで世界人口は約71億人。単純計算で1人あたり1年間約384kgの穀物を食べることができる。しかも、年間の標準量は180kgと大幅に越えている。では、なぜ飢える人が出てくるのか。それは先進国が家畜にえさとして約6割(4億トン)の穀物を与えていることが挙げられる。しかも、家畜や魚1kgと穀物1kgのカロリーはほぼ同じである。しかし、次郎君の言うとおりに、健康体であるためには、動物性タンパク質も必要である。だから、少し先進国が肉食をひかえ、肉食の需用を減らせば良いと思う。そして、農作物(とくに穀物)の生産を増やすことで多くの農作物が出回り、少しでも価格がおさえられると思う。また、肉食と農作物が両立できるようになると思う。このように、農作物の生産を国全体で増やしたり、私たち、先進国の人々が肉食を少しでもひかえることが大切だと思う。

(※寸評:この作文は、穀物の価格から分配の不公平を改善しようと、鋭く提起しています。一般に商品の価格は、市場で買おうとする量(需要)に対して、売られる量(供給)が多くなると価格は安くなります。「市場価格」の原理です。この作文の作者が指摘するように、先進国が肉食を抑えると穀物が余るので、市場の穀物の価格は安くなります。発展途上国には貧しくて穀物を買う力のない人々が多いため、そこで、穀物の価格を下げるとよいという発想も一理あります。この原理はまだ学習していませんので、多くの人が気づかなかったのも無理はありません。作文の作者の着想と学習意欲が光ります。)

(7) 日本の食料輸入を制限するべきだと主張する作文

B組A.H. この4人は地球の飢餓について話している。日本でも多くの食料が廃棄されている。飢えている人たちにも食料がいきわたるにはどうすれば良いのか。僕は、「日本の食料輸入に制限をかける」ということが最善策だと思う。家庭での食料ごみを減らしたとしても、店や食料を仕入れた所が食料を捨ててしまっただけでは根本的な解決策にはならないと思う。石油を使って食料廃棄をしているのなら、捨ててしまう分の食料を制限すれば良いのではないかと。資源を同時に無駄にすることがなくなれば、温暖化にも少し歯止めがかかる。「ブタや牛が太っていった人間が飢えている」という意見があるが、これは肉を食べるため、言い方を変えれば私たちが飢えないようにするための食料であって、決して無駄になっているわけではない。家畜にエサを与えず、肉食を止めれば、却って私たちが不健康になる。そうなればまた負の連鎖が起こる。「穀物すら食べられない人がいる」とあるが、それこそ輸入に制限をかけ、貧困地域にその分を回せば、穀物すら食べられないという事態は免れるのではないかと。そのためにも、日本全体で食料の浪費を防がなければならない。日本は国土面積、耕地面積も少ない上、人口が多いため、輸入

に頼ってしまうのは仕方のないことだろうと思う。だけど、外国と貿易した結果、捨ててしまうというのは地球全体で見ても無駄である。どうせ捨てる食料なら、必要としている所に回せば良い。だから、「日本の食料輸入に制限をかける」ということが最良の手だと思う。

(※寸評:この作文は、日本の食料輸入を制限することで食料の大量廃棄を防ごうと提案しています。食料の大量廃棄は飢餓の原因だけでなく、地球温暖化の原因もなっているとして現在の日本の社会のあり方を厳しく批判しています。個人個人の努力だけでは食料の大量廃棄問題を解決するのは弱いから、国の政策で制限しようとする方法にも一理あります。しかし、自由に経済活動を行うことが原則の日本で、輸入制限で社会全体で少なくした食料を、どのようにすれば国内で無駄なく分配できるのかについては、検討できていません。もう少し、深く考えることができると良かったですね。)

E組Y.U. 今世界には、飢えに苦しむ人々が大勢います。その数は、約8億人で、飢えが原因で死ぬ人は、1日に4万人もいます。これは、食料の不足が原因でおこっているのでしょうか。私は、世界中の人々の世界のどこかで飢えに苦しんでいる人を思う気持ちが不足しているのだと思います。主に先進国で暮らす私たちに、原因があるのです。例をあげてみます。今、先進国では大量に家畜が飼われています。こういった先進国の一部では、穀物の6割が家畜のエサにあてられています。私たちは、肉を食べる生活をなかなか手放せないで、この問題の解決への道はとても厳しいと思います。ですが、家畜は太り、発展途上国では多くの人々が飢えているというこの状況を、なんとかして解決しなければなりません。それには、先進国を主に、世界中での取り組みや、一人ひとりが意識を変え、行動に移す必要があるのは明白です。まず私は、自分にできることを考えてみました。まず、食べ残しはしない。食料を余分に買わない。次に、コンビニやスーパーでも、1日に作ったりする量を、少しだけでも制限したら、食料をゴミにせず、石油を使う量も少なくなると思います。また、世界規模に考えた対策として、私は、輸出・輸入できる家畜の量を先進国が制限するという策を考えました。すぐには無理でも、こうすれば、だんだんと家畜の飼育量が減り、エサにまわらなくなった穀物を、発展途上国にまわしていきけるようになると、私は思います。

(※寸評:この作文は、家畜の輸出入の量を制限するというアイデアを提案しています。その根拠に、飢餓の原因に先進国の肉食を主なものとしてあげています。論理が一貫しています。しかも、日常生活で私たちが少しだけ工夫するだけで可能な取り組みも提示できています。とても優れた作文です。ただ、食料の大量廃棄を検討せずに、肉食だけおさえることを論じるとかなりの無理が生じます。家畜に与えている穀物も多いですが、廃棄されている穀物の方が多いからです。食料の大量廃棄の原因と解決方法もあわせて考えるともっと良い作文になったと思います。)

(8) ユニセフなどに募金するべきだと主張する作文

B組M.F. まず、花子さんが考える意見はありません。1人でも多くの人が生きたためにはどうすれば良いのかを考えていないし、勝手に私達の生活を優先するのは不公平です。では、次郎くんのように肉を食べながらも地球上で飢えている人達を減らすにはどうすれば良いのか。今回の話し合いの問題点は何故豚などの家畜が太っていて地球上に食料がなくて飢える人が存在するのか？です。それらを解決するには私達が捨てている食物を他の国に与えれば良い。と誰もがそう考えるかもしれませんが、それではいつまで経ってもその国は発展せずずっと貧しいまま。でも、どうすれば良いのか。まず、私たち1人1人が募金などをしてお金を集めます。例えば、コンビニでお弁当を買ったらそのうちの10円が募金されるなどでもいいのです。そうして1人1人で支え合います。そして、そのお金をどう使うのか。それは発展途上国などに技術を教えるのです。小さい子には教育を

うけさせます。大人にはその土地にあった食物の育て方などを教えます。そうすれば、自分達の力で支えられ、飢える人が減ると思います。大変なことかもしれないけど、まずは私達が助け合い、支え合い、この問題について考え、日々学び向きあっていくことが大切だと考えています。

(※寸評:この作文は、「勝手に私達の生活を優先するのは不公平です」と問題点を明確にして、飢餓問題解消の対策を考えています。そして、廃棄している食料を飢えている発展途上国に与えるのではなく、発展途上国が自分たちで穀物を生産できるように支援するべきだと主張しています。現在、国連やNGOがしている活動にも同じような取り組みがあります。その活動に、コンビニ弁当を買ったときに募金して協力しようというのが作者の提案です。ただ、飢餓問題の解決方法は、大きく分けると2つの方法が必要でしょう。それは、今飢えている人々をどのようにして救うのかという緊急的な方法と、持続可能な方法としての継続的な支援です。作者の言う「その土地にあった食物の育て方などを教える」のは後者の支援方法にあたります。この作文の作者は、自分のできることを懸命に探そうとしています。その点が光ります。)

E組A.N. 私は、ユニセフなどの団体に寄付をする。ということが私たち1人ひとりにできることだと思う。例えば、ユニセフは飢えて苦しんでいる子供たちに寄付で買った栄養食を届けている。国の方針は簡単には変えられないから、飢えて苦しんでいる人たちを助けようとしている企業や団体を資金面で応援することができると思う。また、スーパーなどで食材を買って料理をするならば、できるだけ無駄のないように調理をして食べ残しをしないことが日常でも実せんすることができる。その姿を周りの人たちに見せることで、身の回りで起きている食べ残しなどを少なくすることができるだろう。でも、なかなか行動に移すのは難しいことだと思う。だから、まずはこのことについて自分で調べて学ぶことが大切だ。

そして、そのことがらをさっきと同じように周りの人に広めていくことが私たちにもできるのではないかと思う。もし国全体で、できることがあるのなら野菜などの食べ物の輸入量を減らすことだろう。そもそも、野菜などの輸入量が増えているのは農業に従事する人が減っているからだ。もし、農業従事者が増えたら日本の野菜などの輸入量が減り、今までに日本に輸出されていた分が飢餓に苦しむ国に輸出されるようになるだろう。だから、今からでもたくさんの若者に声をかけ、働こうと思ってくれるようなシステムをつくる必要がある。そうすることで、飢えに苦しむ人たちは必ず減ると私は思っている。これが私の思う 飢えに苦しむ人たちを減らすために、私たち1人ひとりと国全体ができることだ。

(※寸評:この作文の作者も、自分ができることを中心に考えています。作文内容から、国連のユニセフの活動だけでなく、多くの企業が飢餓問題に取り組んでいることも調べていることが伝わってきます。そのうえでの募金活動の提案は、とても説得力があります。支援と言えば、一般的な中学生は「募金活動」と安直に答えようとしています。しかし、この作者は、日常生活上でできる自分たちの様々な活動に目を向けていますから、募金活動は支援策の一つでしかないと考えていることがよく分かります。また、この作者が「国の方針は簡単には変えられないから」と、国全体の政策を改善することの難しさをふまえて、自分たちでできることを考えようとする姿勢を伝えようとしています。その姿勢が説得力を補強しています。)